

松山市議会 副議長選挙に係る所信表明会会議録

[開催日時]

令和2年7月2日（木曜日）午後4時40分開会
午後4時54分閉会

[開催場所]

議 場

[所信表明者]

1. 渡 部 克 彦 議員（みらい松山）
2. 吉 富 健 一 議員（公明党議員団）

※所信表明申出書届出順

— 午後 4 時 40 分開会 —

○渡部俊明事務局長 ただいまから松山市議会副議長選挙に係る所信表明会を開催いたします。

失礼して着席にて進行させていただきます。

お手元配付の所信の概要のとおり、渡部克彦議員、吉富議員から所信表明の申し出がありました。

所信を表明する順番につきましては、届け出順により、渡部克彦議員、吉富議員の順でお願いいたします。

この際、申し上げます。

申し合わせにより、所信表明に対しましては、何人も拍手、その他の方法により賛意を表し、またはやじ、その他の方法により反意を表してはならないとなっておりますので、御注意を願います。

それではまず、渡部克彦議員、所信表明をお願いいたします。

〔渡部克彦議員登壇〕

○渡部克彦議員 みらい松山、渡部克彦でございます。

今回、松山市議会副議長選挙を臨むに当たり、私の議会運営に対する所信の一端を述べさせていただきます。

お手元配付の所信の概要をごらんください。

私は、2つの取り組みについて取り組んでいきたいと思っております。

まず1点目、新型コロナウイルス感染症に対する取り組み強化であります。

新型コロナウイルス感染症対策連絡協議会が現在設置をされておりますけれども、ことし4月に設置をされております。しかしながら、今首都圏東京では、どんどんと感染者がふえております。緊急事態宣言後、昨日で50人連続が6日間、そしてきょうは100人を超えたとの報道がありました。これは必ずや地方、こちら松山にもやって来る、そんなことを思い、これからもさらに新型コロナウイルス感染症対策連絡協議会の強化を図るべきであると考えております。

2点目であります。2点目は、議会改革の取り組みであります。

その1つに、仮称であります、議会連絡協議会、仮称ですが、市議会勉強会の設置を設けてはどうかと思っております。

議会連絡協議会においては、新型コロナウイルス感染症対策連絡協議会の設置のように、議会として理事者に提言をするときには、理事者の個々に行くのではなく、ある程度数が集まれば議会として市に対し、理事者に対し提案をしていけばと思っております。市議会の勉強会においては、ここ議場にお集まりの方は専門性の高い議員さんも多くいると感じております。その方が提案をし、勉強会をしようという声があるならば、議会として勉強会の取り組みをしていけば、そのように思っております。

議会改革の取り組みの2点目として、市議会一般質問における議員発言時間の拡大を考えております。

今回も5日間の一般質問において、22名の議員の方が登壇をし、熱い論戦を繰り広げました。その日程を見てみますと、予備日を消化しておりますけれども、まだ比較的時間的には余裕があるのではないかと、そのように考えております。そのような中で、有効な時間を一般質問の各議員の持ち分、時間をふやせれば、もっともっと活発な議会が行われると確信しております。

3点目についてであります。

議場内のソーシャルディスタンスの取り組み、今議場を見ますと、皆さんも臨時議会そして今議会、一定の距離をとり着席しております。理事者側におかれましては、市長以下三役、そして関係理事者の出席を求めています。地方自治法では、議員定数の半分以上の議員が出席しなければ会議を開くことができないことにはなっております。この議場の中でも控室でCATV等で会議を見ることができます。そして、この議場の中では、ある一定の距離が保たれる、そのようなことが実現できるのではないかと考えております。このことは先進的に取り組んでいる議会もあると聞いておりますので、ぜひその議会に行き意見を聞いてみたい、そのように思っております。

私が副議長に当選をさせていただければ、議会全体に気を配り、偏った議会運営に陥らない、そのように

気をつけていかなければならないと思っております。そのためには、議員各位の意見に真摯に耳を傾け、党派・会派・無会派の枠を取り払い、議会内の融和を図り、公平で民主的な議会運営を若江議長とともに進めてまいりたいと思っております。ここにお集まりの議員さんは、地域・職場・職域から出てこられた一国一城のあるじでありますので、その議員の方々の意見を尊重する、そのような議会になればと思っております。

議員各位の絶大なる御支援を賜りますようお願いを申し上げます、私の所信とさせていただきます。

○渡部俊明事務局長 以上で、渡部克彦議員の所信表明は終わりました。

次に、吉富議員、所信表明をお願いいたします。

〔吉富健一議員登壇〕

○吉富健一議員 公明党議員団の吉富健一でございます。

ただいまより副議長選挙の実施に先立ちまして、所信を述べさせていただきます。どうぞよろしくお願いを申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大という未曾有の災難に遭って、世界もまた日本もまだまだ先の見通せない不安な状況でございます。本市においてもそれは例外ではなく、今日までに 63 人の方が感染をし、未知のウイルスと戦われています。重ねて亡くなられた方の御冥福をお祈り申し上げますとともに、罹患された方、御家族の皆様には重ねて心からお見舞いを申し上げたいと思います。また、こうした世情においても、市民の命と暮らしを守るために働き続けてくださっている皆様に改めて感謝を申し上げたいと思います。

一方で、感染拡大防止のために外出の自粛・抑制や密閉・密集・密接の 3 密回避が求められる中、経済が低迷し、苦境に立つ経営者の声、雇用や待遇が悪化した労働者の皆様の声も多く聞かれます。コロナ禍にあって我々議員は、松山市議会として何ができるのか、議会には最終意思決定機関として、最善の選択を導き出し決定していく使命がございます。松山市議会では、これまでも行政の監視機能の強化と政策立案力の向上を目指して議会改革に取り組んでまいりました。

また、現在のコロナ禍においては、議長を座長、副議長を副座長として、新型コロナウイルス感染症対策連絡協議会が設置され、緊急時における議会の対応や情報共有と政策提言について一定のルールが定まったところです。その上で、議事機関としての役割を踏まえながらも、今後は一層市民と行政をつなぐ親和性を生かしつつ、打てば響く即時性を高める工夫が議会には必要ではないかと考えております。こうした観点に立ち、今後議会が取り組むべきこととして私が思うのは、一つには、現在は協議会を通じて要望活動が行われておりますが、コロナ禍における市民の声を代弁し、市政における課題を抽出し、的確な対応策を提示することが一層重要になると考えております。

また、将来の予見が不透明な中、市民の皆さんが夢と希望を持てるよう、議会の働きかけでポストコロナ、ウィズコロナ時代の本市の将来像を示すことなども必要になってくるのではないかと。さらに、コロナ禍のような非常時や災害時における議会の持続・継続性を確保することが喫緊の課題であり、そのためにも議会の ICT 化、つまり情報通信技術の活用を一層推進する必要があります。対面・参画の必要がないオンラインによる通信環境の整備と活用が進むことで、オンライン議会報告会など、新たな市民参画の可能性も広がってまいります。

以上、思いつくまま述べましたが、こうした取り組みが市民の負託に応える議会にとって大事なのではないかと考えております。ともあれ議員の皆さんの御指導をいただき、お知恵とお力等いただきながら、議長を補佐し、コロナ禍における市政の向上のために、市民の安寧のために尽力をしていきたいと決意しております。

皆様の御賛意と御支持等をどうぞよろしくお願いを申し上げます。

○渡部俊明事務局長 以上で、吉富議員の所信表明は終わりました。

以上で、松山市議会副議長選挙に係る所信表明会を終了いたします。

— 午後 4 時 54 分閉会 —